ウィーンの風
Japanische Gesellschaft in Österreich

2019年7月

6月25日発行

オーストリア日本人会会報

VICの中の日本

UNIDO事務次長　国吉　浩

ご存じのとおり、ウィーンはニューヨーク、ジュネーブとともに、世界三大国連都市のひとつです。その核となるのが、今年8月に40周年を迎えるVIC（Vienna International Centre）です。私の勤務するUNIDO（国連工業開発機関）やIAEA（国際原子力機関）、UNODC（国連薬物・犯罪事務所）、CTBTO（包括的核実験禁止条約機関）などの国際機関が多数集まっています。

そこで働く日本人には、何十年も勤務している人がいる一方、2～3年の短期間で日本に帰ったり、次の勤務地に移る人もいます。したがって人数は常に変動していますが、現時点で90名ほどの日本人がいます。男女比は男性が若干多く、6割弱。また30歳前後の若手も多く、元気に活動しています。

平和及び麻薬撲滅の鐘（右奥に見えるのがソメイヨシノ）

VICのすぐ近くにある在ウィーン国際機関日本政府代表部には、日本の外交官20名ほどが勤務しています。彼らは日常的にVICに出入りし、他の国の外交官や国際機関の職員と常に議論をし、日本政府の立場から、VICの国際機関の活動に貢献しています。

こうした日本人の活躍に加え、VICでは、さまざまな日本の文化や歴史に触れることもできます。VICの敷地に入ると、噴水のある大きな広場が広がっていますが、右手にソメイヨシノの木が5本あります。これは岐阜サクラの会から1997年に寄贈されたもの。そしてUNIDOのあるDビルの前には大きな「平和及び麻薬撲滅の鐘」があります。日本政府、麻薬・覚醒剤乱用防止センター、日本相撲協会により1995年に設置されました。

VICの建物群の中心にあるCビルには、ロトンダと呼ばれる円形の大広間があります。各国元首などが訪れた際には、この入口に赤いじゅうたんが敷かれ、各国際機関の長が出迎えます。そのロトンダに掲げられているのが、縦2．4m、横7．2mある吉田左源二作の絵画「鳳凰来儀」です。国連50周年を記念して、1996年にアジア刑政財団から寄贈されました。Cビルの4階には、1994年に池坊家から寄贈された「生け花屏風絵」が飾られています。また、Cビルの奥にあるＧビルの5階には、原爆展が常設され、爆発による高熱で変形したガラス瓶などの被爆資料や、広島、長崎の市街地の写真などが展示されています。

3月にロトンダで開催されたUNIDO『JapanWeek』の様子（右奥に見えるのが「鳳凰来儀」）

日本に関連したイベントも頻繁に開催されています。7月4日には、8月末に横浜で開催されるTICAD7（第7回アフリカ開発会議）に先立ち、UNIDOと日本政府などの共催で、Pre-TICAD7セミナーが開催されます（https://www.unido.org/events/pre-ticad7-event-vienna）。この機会に、VICを訪れてみては如何でしょう。